

# 家畜衛生週報

## ANIMAL HYGIENE WEEKLY

No.3909 農林水産省消費・安全局 畜水産安全管理課、動物衛生課 2026. 6. 29

・家畜衛生レポート（山口県）	193
・第66回全国家畜保健衛生業績発表会演題（福岡県）	195
・動物用医薬品副作用報告（令和8年5月）	198

### ☆家畜衛生レポート（山口県）

山口県北部家畜保健衛生所

が、今回は、萩市にある北部家畜保健衛生所の概要について紹介します。

#### 1 はじめに

山口県には4か所の家畜保健衛生所があります

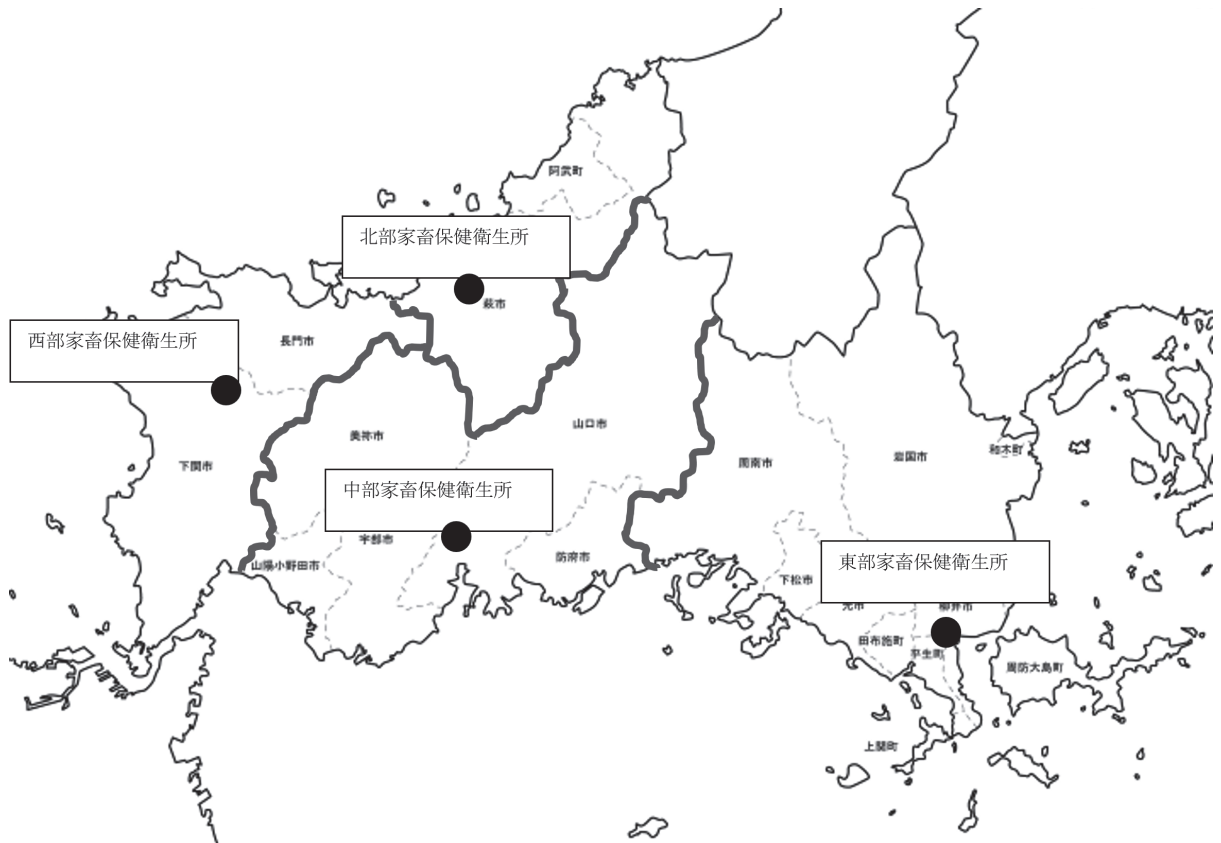


図1 山口県家畜保健衛生所配置図

## 2 当所の概要

当所は、山口県北部に位置し、北は日本海に面し、東は島根県と県境を接した地域です。構成市町は、萩市、阿武町の1市1町を管轄しています。

阿武萩地域は古くから県下有数の肉用牛生産地帯であり、和牛地方特定品種の一つである無角和種が阿武町で飼養され、更に我が国の「和牛の原型」と言われる国の天然記念物の見島ウシが、萩市見島で飼養されているのが当所管内の特色です。

管内では、肉用牛3,123頭（黒毛和種2,109頭、無角和種170頭、見島ウシ69頭、その他775頭）、乳用牛357頭、豚5,599頭が飼養され、管轄する面積は他の家畜保健衛生所より狭いものの、県内有数の規模を誇る肉用牛農家や酪農家を有しています。

当所は、保健防疫課と畜産振興課の2課で構成され、所長、次長、畜産振興課2名（うち総務1名）、保健防疫課5名の合計9名の職員で業務を行っています。

## 3 業務の概要

保健防疫課の主な業務は、家畜伝染病の発生子防・まん延防止、飼養衛生管理基準遵守の徹底、家畜衛生対策の推進、繁殖検診や子牛の育成指導などの生産性向上対策であり、畜産振興課は担い手の育成支援や耕畜連携の推進等となります。

さらに、無角和種、見島ウシの保護振興活動も関係団体と協力して推進しているところです。

## 4 当所の主なトピックス

### (1) 無角和種

無角和種は、旧阿武郡一帯で飼養されていた在来牛にアバディーンアングス種（F1種雄牛）を交配して造られた品種であり、その名のとおり角がなく、毛色は濃い黒色、肉質は赤身主体のヘルシーな牛肉として知られており、現在、阿武町の一般社団法人無角和種振興公社が所有する「無角和種繁殖センター」で約170頭が飼養されています。当所は毎月、当センターでの繁殖検診、肥育牛の体測、予防注射等を関係者と協力して実施し、また、地域の集落営農法人と耕畜連携による粗飼料供給や山口型放牧の取組等、無角和種との共存共栄を推進し、地域農業の振興と増頭を目標に日々活動しています。

### (2) 見島ウシ

見島ウシは、萩市沖の離島である見島でのみ飼育



図2 無角和種の親子



図3 見島ウシの放牧



図4 埋却予定地の確認



図5 防疫研修

され、外国種との交配を免れた純血和種であり、昭和3年に天然記念物に指定（産地指定）されました。当時は523頭の見島ウシが飼養されていましたが、昭和50年代前半には成雌牛が30頭余りにまで減少したことから、平成20年3月、萩市が「国指定天然記念物見島ウシ産地保存計画」を作成し、見島ウシ保存会および関係団体と連携し、課題解決に取り組んでいます。現在、雌牛は70頭前後で推移しています。当所は毎月1回、巡回指導を実施し、繁殖検査や寄生虫対策等を指導しています。また、見島ウシの平均近交係数が非常に高くなっているため、関係者や農林総合技術センター畜産技術部と連携して、次世代種雄牛の造成・更新や凍結精液による遺伝資源の確保を行っているところです。

(3) 家畜伝染病発生予防と衛生対策

家畜伝染病予防の地域責任機関として各種の伝染病の検査やワクチン接種を実施し、疾病の発生予防に努めています。また、定期的に飼養衛生管理基準の遵守状況を確認し、指導を行っています。

令和6年度は、萩農林水産事務所農村整備部と牛農家を全戸巡回し、埋却予定地が適切であるかの確認を行いました。

(4) 防疫研修

口蹄疫や豚熱等の特定家畜伝染病が発生した際には、防疫指針に基づき防疫対応を実施します。発生農場を管轄する農林水産事務所では、現地防疫対策本部を設置し、各々が担当の防疫対応を行う体制となっており、年1回防疫研修を実施しています。防疫研修では、各々が主体で実地訓練を行い、作業への理解向上と課題・疑問点の確認を行っています。

また、特定家畜伝染病の発生時、各々が主体で活動できるよう「特定家畜伝染病防疫業務手順書」の改定を毎年行っています。今後も、農林水産事務所での防疫研修会等を定期的実施することで、家畜伝染病発生時に円滑に防疫対応が実施できる体制づくりを進めていきます。

5 おわりに

家畜保健衛生所の仕事は、畜産農家だけでなく、地域社会、消費者の健康と安全に深く関わることになるとの職員一同の認識の下、今後も励んでまいります。

☆第66回全国家畜保健衛生業績発表会演題（福岡県）

高病原性鳥インフルエンザが発生した大規模養鶏場の発生予防対策の強化

中央家畜保健衛生所 ○小森 敏宏ほか

令和5年3月、管内の大規模養鶏場（採卵鶏243,000羽飼養）において高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が発生し、関係機関及び自衛隊の協力を得て、翌4月すべての防疫措置を終えた。当所は、農場の経営再開を支援するにあたり、疫学調査結果に基づく飼養衛生管理基準の遵守徹底に向けた協議を重ね、農場の衛生意識を醸成しHPAI発生予防対策の強化に結び付けることができたのでその概要を報告する。

1 農場の概要（図1）

農場は周辺を林に囲まれた山腹に位置し、2階建てウインドウレス鶏舎を3棟有し、棟内は中央部が壁で隔てられ2鶏舎に分かれている（合計6鶏舎、うち1鶏舎は空舎）。各鶏舎は背中合わせ直列8段ケージを3列備えており、1鶏舎当たり50,000羽を飼養可能で、鶏卵は併設のインライン式GPセンターで集荷している。

2 HPAI発生と防疫措置等（表1）

3月1日、山側の1鶏舎で死亡鶏が増加したため農場から通報があり、同日、家保が立入して簡易検査で陽性を確認した。翌日、HPAIの疑似患者と判定されたため、防疫措置を開始し、7日に殺処分、14日に防疫措置が完了し、4月5日0時をもってすべての制限区域を解除した。

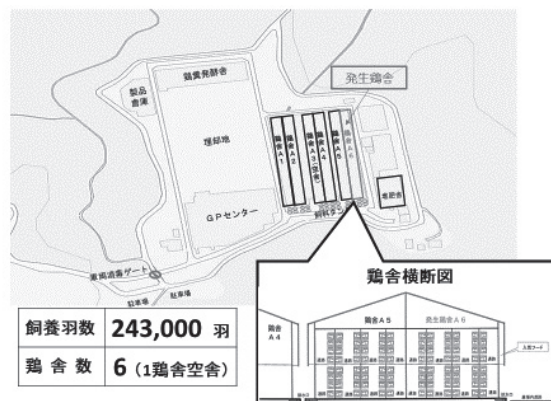


図1 農場の概要

3 疫学調査結果

疫学調査班からの指摘は、表2に示す5項目であったが、特筆すべきは、令和4年度シーズンは当所管内において、死亡したカラス6羽からHPAIウイルス(H5)が確認されており、当該農場にも日常的に多数のカラスが飛来していたことである。

4 HPAI発生予防対策の強化

飼養衛生管理基準の遵守徹底について協議するために、4月から令和6年5月までの間に検討会を12回開催した。協議内容は表3のとおりで、その中で福岡県畜産経営安定緊急対策事業(補助事業)の活用を農場に提案した。

(1) 野鳥侵入防止対策

補助事業を活用するにあたり、農場内設備への野鳥の侵入が危惧される箇所を総点検した結果、多くの整備箇所が確認され(図2)、補助事業により改修等を行った。

このうち、鶏舎のシャッターは、老朽化により錆びついており完全には閉まらないものもあったため、12枚あるシャッターのうち8枚を交換し、4枚は補修を行った(図3)。また、鶏舎軒下等にある吸気口は野鳥や羽毛等の塵埃が侵入する可能性があったため、金網等の補修・交換のほか、取り外して洗浄することで再生可能なフィルターを設置した(図4)。さらに、野鳥が出入りできる隙間が確認された除糞ベルトにはネット(図5)を、堆肥舎等の出入り口にはカーテンを設置した(図6)。

さらに、HPAIウイルスを持ち込むリスクが非常に高いカラスの農場内侵入防止対策として、カラスの営巣地であった農場周辺の樹木を農場の自己資金を使って伐採(図7)した。餌場となっていた堆肥舎等への侵入防止対策と周辺の樹木伐採による侵入防止対策を併せて実施したことで農場内へのカラスの飛来は劇的に見られなくなった。

(2) 動線の交差汚染防止対策

鶏の飼養管理を行う従業員と飼料業者や堆肥運搬業者等の鶏舎内に入らない来場者が衛生管理区域内で交差しないよう、従業員、飼料業者、堆肥運搬業者毎に場内動線を決め、来場者が記帳し専用の衣服及び靴を着用できる更衣室の建設と消毒ゲートの設置を農場の自己資金で実施した(図8)。令和6年

表1 HPAI発生と防疫措置

Table with 3 columns: Date (日付), Item (項目), and Details (詳細). It lists events from March 1st to April 5th, including HPAI detection, culling, and disinfection measures.

表2 疫学調査結果

- List of survey results including: multiple crows nesting in the woods, hygiene management area clothing/shoe rules, disinfection measures, and crow movement control.



表3 飼育衛生管理基準遵守徹底に係る検討会の開催状況

Table with 2 columns: Date (月日) and Meeting Content (協議内容). It details 12 meetings from April 2025 to May 2026, covering topics like business restart schedules, HPAI response, and hygiene measures.

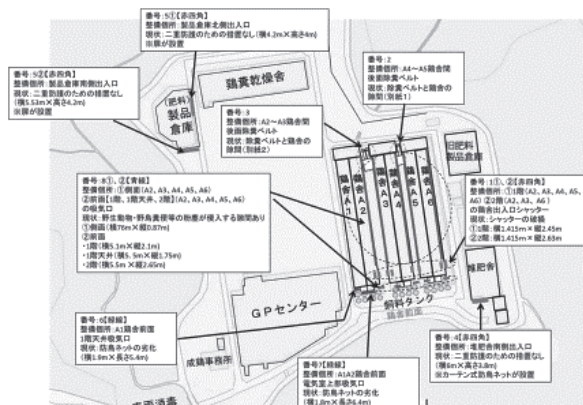


図2 農場内整備箇所の確認

末現在、全ての従業員と業者に動線を周知して厳重に遵守させており、併せて消毒ゲートに守衛を配置して入退場する車両に対し入念な消毒を実施し、専用フロアマットを貸与して退場するまでの間、車両内で使用させている。

5 まとめ

今回のHPAI発生事例におけるHPAIウイルスの侵入経路は不明だが、発生当時管内でも複数の死亡したカラスからH5亜型ウイルスが分離されており、当該農場にも多くのカラスが飛来していたことから、本事例にはカラス等の野鳥が大きく関与していたものと推察された。このため当所は、農場の経営再開を支援するにあたり、野鳥等の侵入防止対策を中心としたHPAI発生予防対策の強化が急務であると考え、農場と協議を重ねて対策を検討した。

農場は発生予防対策を着実に実行して令和5年10月から経営を再開しており、再開後も樹木の伐採等を行いながら継続して対策に取り組んでいる。

当所は今回の経験を基に管内にある多くの養鶏場と協力してHPAIの発生予防に努めていきたい。

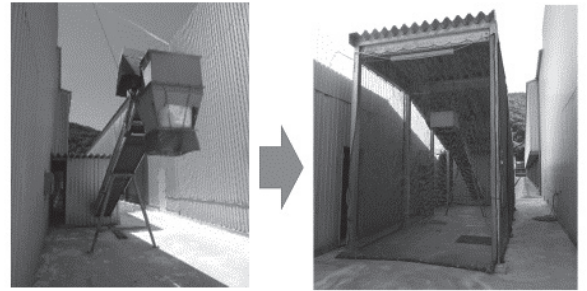


図5 野鳥侵入防止対策（除糞ベルト）

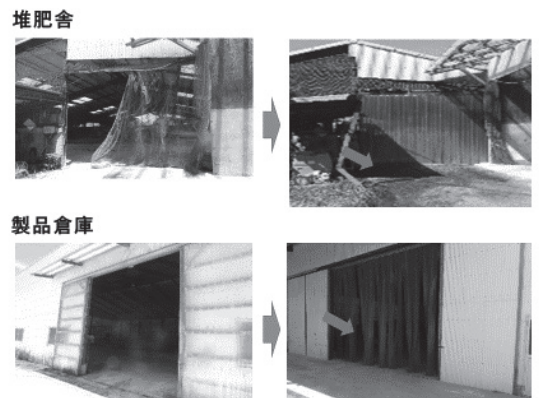


図6 野鳥侵入防止対策（堆肥舎、製品倉庫）

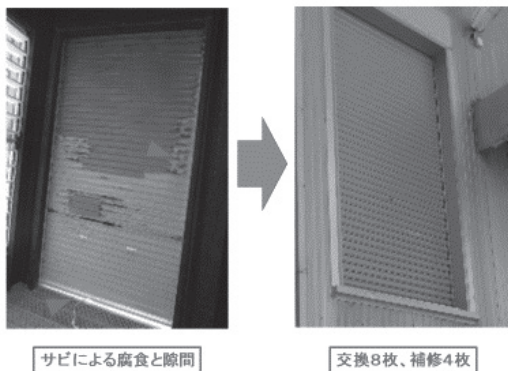


図3 野鳥侵入防止対策（シャッター）



図8 交差汚染防止対策（更衣室と消毒ゲート）

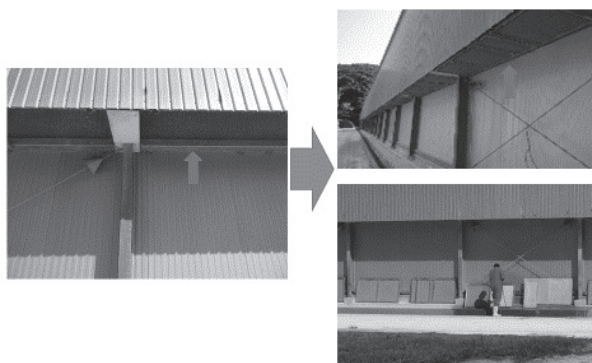


図4 野鳥侵入防止対策（フィルター）



図7 野鳥侵入防止対策（樹木伐採）

☆動物用医薬品副作用報告 (令和8年5月)

(1/3)

産業動物における動物用医薬品副作用に関する報告 (医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第68条の10)

製品名	牛サルモネラ2価ワクチン
製造販売業者名	明治アニマルヘルス株式会社
動物種	牛
発現動物数／ 投与動物数	13 / 513
性	混在
年齢	1ヵ月
投与前の 健康状態	普通
以前の使用歴	あり
以前使用時の 副作用の有無	あり
投与量	2mL
投与方法	皮下注射
投与日	R8.3.16
副作用発現日	R8.3.16
副作用の種類	死亡、跛行
治療の有無	不明
転帰	死亡 (10頭) 後遺症あり (3頭)
担当獣医師に よる評価	因果関係がある可能性がある。
製造販売業者 による評価	<p>本件は、一農場で3月中旬から4月中旬にかけて牛サルモネラ2価ワクチンを同一の投与プログラムで投与した複数の牛群において発生した有害事象である。当該農場ではこれまでも牛サルモネラ2価ワクチンを投与した後に発熱等が発現することがあったが、今回は1ヵ月間に続けて10頭が死亡したため管理獣医師と特約店に報告した。今回の事象では、ワクチン投与後1時間以内に泡を吹いて死亡した症例や投与後4時間～12時間経過後に死亡した症例、さらに、投与後1時間以内に元気消失して3日後に死亡した症例、または、投与後1時間以内に跛行を呈した症例や投与後に発熱した症例が報告されている。それらはワクチンを投与した複数の従業員によるものである。管理獣医師が立ち会っていないため各症例の症状や経過、治療の有無など獣医学的な詳細情報は提供されていない。一方、牛サルモネラ2価ワクチンはこれまでも投与後にアナフィラキシーショックやエンドトキシンショックが疑われた副作用事例が報告されている。製品の添付文書「使用上の注意」(専門的事項) ①警告に「過敏体質のものでは、アナフィラキシー様反応やエンドトキシンショック(虚脱、貧血、血圧低下、呼吸促拍、呼吸困難、体温低下、流涎、ふるえ、痙攣、尿失禁等)が起こることがある。これらの反応は、本剤投与後30分位までに発現する場合が多く見られる」と記載されている。さらに、(牛に関する注意)には「サルモネラ汚染農場(発病牛、排菌牛、または、保菌牛が存在する農場、または過去に発生があった農場)で本剤を投与した場合、一部の牛では一過性の発熱、食欲不振を呈する事がある。副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること」と記載されている。従って、本有害事象も牛サルモネラ2価ワクチンの投与により過敏な体質の牛がアナフィラキシー様反応、もしくはエンドトキシンショックを起こした可能性が考えられた。今回使用された牛サルモネラ2価ワクチン(ロットNo.1014)は既に94,050ドーズが販売されているが、本件以外の副作用報告は入手していない。また、製品試験記録からロットNo.1014のエンドトキシンシ定量は規格値内であり、その他の試験項目にも問題がない製剤であることを確認している。</p> <p>当該農場では、以前から牛サルモネラ2価ワクチン投与後に発熱等の副反応が確認されていたとの事であるが、今回、死亡等、重篤な症状を呈した症例が多かった理由を解明するは困難である。跛行と本ワクチンの直接的な因果関係も不明である。本ワクチンの投与時期や農場環境、さらに当該牛の健康状態など複数の要因が関連した結果である可能性がある。いずれにしても本有害事象と牛サルモネラ2価ワクチンは因果関係があると考えられる。また、それらは添付文書に記載された範囲で既知の副作用であると考えられるが、死亡した症例が複数頭である事から牛サルモネラ2価ワクチン投与後の重篤な副作用事例として報告する。今後も本製剤に関する安全管理情報の収集に努めると共に本製剤の適正かつ安全な使用方法の普及に継続して取り組む。</p>

## ☆動物用医薬品副作用報告（令和8年5月）

(2/3)

産業動物における動物用医薬品副作用に関する報告（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第68条の10）

製品名	“京都微研”キャトルバクト3	レスフロール
製造販売業者名	株式会社微生物化学研究所	MSD アニマルヘルス株式会社
動物種	牛	牛
発現動物数／ 投与動物数	1 / 不明	1 / 1
性	オス	メス
年齢	21日	11週
投与前の 健康状態	普通	良好
以前の使用歴	あり	なし
以前使用時の 副作用の有無	なし	なし
投与量	1mL	不明
投与方法	筋肉内注射	頸部皮下注射
投与日	R8.4.28	R8.3.19
副作用発現日	R8.4.29	R8.3.19
副作用の種類	死亡	呼吸数増加、喘鳴、虚脱、 眼瞼腫脹、アナフィラキシー
治療の有無	無処置	治療 (抗アレルギー薬)
転帰	死亡	回復
担当獣医師に よる評価	評価なし。	因果関係がある。
製造販売業者 による評価	本症例はエンドトキシンショックを疑う根拠に乏しく、判断が難しい。また、前日に注射したこと以外に本剤の関連を示唆する妥当な説明が見当たらない。以上のことから、因果関係について不明と考える。	投与と発症の時間の関連性も妥当だと判断され、また投与された薬剤は本剤のみであった。しかしながら、当該牛は肺炎の治療のために本剤が使用されており、肺炎と有害事象の関連性が除外できないことから、他の病因も否定できない。

☆動物用医薬品副作用報告 (令和8年5月) (3/3)  
産業動物における動物用医薬品副作用に関する報告  
(医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の  
確保等に関する法律第68条の10)

製品名	インゲルバック PRRS生ワクチン
製造販売業者名	バーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社
動物種	豚
発現動物数/ 投与動物数	29 / 1200
性	メス
年齢	不明
投与前の 健康状態	不明
以前の使用歴	あり
以前使用時の 副作用の有無	なし
投与量	2mL
投与方法	筋肉内注射
投与日	R8.3.18
副作用発現日	R8.3.19
副作用の種類	流産、第一胃うっ滞、死亡
治療の有無	治療 (チルミコシンリン酸塩)
転帰	死亡 (8頭) 不明 (21頭)
担当獣医師に よる評価	担当獣医師なし。
製造販売業者に よる評価	本件は本剤を約1,200頭の妊娠母豚に 一斉投与したところ、翌日から投与 後25日までに21頭が早流産を起こし、 8頭が死亡したものであるが、早流 産・死亡までの経緯の詳細は不明で ある。また、投与前の健康状態及び 複数の併用薬の影響も不明であり、 死亡母豚や胎子の剖検・病性鑑定等 も行われていない。また、当該農場 における通常の早流産および死亡の 発生率は不明であり、以前より本剤 以外のワクチン投与後にも早流産お よび母豚の死亡が一定数報告されて いる。以上から、本剤との因果関係 は不明と考える。

~~~~~  
通信  
~~~~~

サッカーのワールドカップで森保  
ジャパンが予選リーグを突破し、各  
メディアでも見ないことがないほど盛り上がりを見  
せています。次の対戦相手はブラジルと強豪国  
ですが、勝ち負けというだけでなく、国や文化、  
言葉の違いを超え、笑顔で観戦し、健闘をたたえ  
あえるような試合になってほしいと思います。

さて、昨冬からの鶏卵価格の高騰等を踏まえ、  
先日、農林水産省では、「鶏卵の安定供給を図るた  
めの生産・流通対策パッケージ」を公表しました。  
今後とも、我が国の食生活に欠かせない生食も可  
能な国産鶏卵を将来にわたって安定的に供給して  
いくためには、生産から流通までを強化していく  
ことが重要であり、当パッケージは、これまで進  
めてきた飼養衛生管理の徹底に加え、分割管理の  
推進、スマート技術をはじめとした新技術の活用  
による生産性の向上や防疫体制の強化、流通の効  
率化の推進を内容としています。国産鶏卵は、  
サッカー同様、多くの方に笑顔を届ける力のある  
食材です。人手不足にも対応したその生産基盤の  
維持・強化を、新しい考え方や、技術でも支えて  
いけるよう柔軟な頭でとらえ、実践していくこと  
が重要であると考えられます。

毎週月曜日発行
<b>家 畜 衛 生 週 報</b>
編集・発行：農林水産省消費・安全局 畜水産安全管理課、動物衛生課
☎03(3502)8111 内線 4581
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1